

## 世界中の人々と喜びを分かちあうために



Together for Tomorrow

本田技研工業(株) 社会活動推進室  
室長 鈴木博治

Hondaは創業以来、商品や技術を通じて、社会やお客様に喜びを提供することを目的に企業活動をおこなってきた。また、社会活動領域においても、夢のある明日の社会づくりをめざして、地域とのつながりを大切に、世界中の人々と喜びを分かちあえる活動を展開している。主な活動分野としては、次世代育成支援活動、環境保全活動、交通安全の教育・普及活動を柱に、地域や社会の要請に先駆けた活動を展開しているが、とくに近年、未来を創る子どもたちのための育成支援活動は、日本だけでなく北米、欧州、アジアともに力を入れている。

### 自分を見つけ夢を見つける学校

北米では、販売統括会社であるアメリカンホンダモーターが、1993年にコロラド州エステス

パークの郊外に「イーグルロックスクール」を設立した。この授業料のかからない全寮制の学校が受け入れるのは、既存の教育プログラムになじまなかった生徒や自分の人生を変えたいと強く望む生徒たち。ここでは学習する時間や場所に縛られることもない。授業内容は、まず自分が何者であるかを知り、どのような夢を持ち、そのために何を学びたいのかに焦点を合わせて個別に設計される。重要なのは、生徒一人ひとりが自分自身の力で、何を学び、どのように成長したかを記録し、表現し、証明していくこと。授業や共同生活を通じて、生徒たちは自ら夢を描き、努力することの大切さを学ぶ。学校の定員はわずか96名だが、教育研修施設も併設されており、毎年約2000名の教育関係者が訪れる。イーグルロックスクールは、何かを変えたいと望み、そのために努力する生徒を育てるだけでなく、教育改革の種をまくことにも力を入れている。

### モノづくりの夢を育む

欧州では、イギリスの四輪生産拠点であるホンダオブザユー・ケー・マニファクチャリング (HUM) が、昨年度から新たに「ドリームファクトリー」という活動を始めた。これはHUMの周辺にある学校の生徒や先生を対象にしたもので、技術離れがすすむイギリスの子どもたちに、モノづくりの面白さや夢に挑戦することの大切さを伝えるために、HUMが所



イーグルロックスクール独特の授業風景

在するスウィンドン市のスウィンドン科学博物館を会場にして開催した。プログラムのポイントは、参加する子どもたちが、さまざまな実験を通してモノづくり技術の基本原則を体験し、理解できるようになること。イベントでは、1日に3つのワークショップを回り、モノづくりの体験と、でき上がったものを使った実験で原理を学んでもらい、さらに実際の技術にどう活かされているかを確認してもらった。8日間にわたり開催した今回のイベントには、2400名以上の生徒や先生が参加。イベントから数カ月後に反応や意見を聞くために学校を訪問した企画担当者は、参加した子どもたちの9割以上がモノづくりに関心を持ち、半分近くが技術系の仕事に興味を持ってくれたことを知った。今後も子どもたちに、モノづくりの面白さや、夢に挑戦することの素晴らしさを伝えるため、ドリームファクトリーを継続していく。



真剣な眼差しでモノづくりのワークショップに取り組む子どもたち

子どもたちの視線が映し出されており、植林活動や無農薬での稲作など、校内で始まった活動は、今では地域社会と連携した活動へ拡大。子どもたちの思いは、地域社会の環境への意識も育てている。

## 子どもたちから地域社会へ

アジアでは、タイにあるアジア・大洋州地域の事業統括会社であるアジアホンダモーターが主体となり、タイのHondaグループ会社とともに、1999年からタイ全国の小学校を対象にした「学校環境奨励賞」を展開している。この活動は、タイが抱える環境問題を改善したいという国王の希望に賛同して立ち上げたもので、教育省や天然資源環境省、エネルギー省などタイの政府機関も多数参加している。環境保護に最も貢献した学校には国王から「キングスカップ」が贈られるなど、企業の枠組みを超えた権威ある取り組みになっている。プロジェクトは、タイ国内すべての小学校を対象に、環境の保護・改善のアイデアを募集し、その中から優れた提案をおこなった学校に、Hondaグループが資金援助をおこない、約8カ月間実際に取り組んでもらう活動で、これまでの活動で支援した小学校は600校にもなった。どの提案にも、環境問題を身近なものとして見つめる



楽しみながら環境保全活動に取り組む子どもたち

Hondaは、これからも社会の責任ある一員として、お客様の感動や喜びにつながる、新しい価値を創造し続け、世界の各地域に深く根づいて人々と喜びを共有し、喜びを次世代につなげていくために、つねに時代の要請に先駆けた活動を積極的に展開していきたいと考えている。

◆ Honda 社会活動推進室  
<http://www.honda.co.jp/philanthropy/>